

ウダヤナ大学（2月18日～3月2日）

受入大学：ウダヤナ大学

受入学校：デンパサール第二高等学校（SMA 2, Denpasar）

参加ユニット：A（2名）、B（4名）（計6名）

宿泊施設：Sanur Indah Hotel（280,000 ルピア（約2800円）、ツインルーム一室当たり）

ウダヤナ大学コンタクトパーソン：I Wayan Gede Astawa Karang, PhD

担当：大嶋竜午

2月18日（火）

22:40 ジャカルタ空港経由、デンパサール空港着。チャーターした車でホテルに移動。

〈コメント〉

ジャカルタの空港で乗り継ぎ便を待っているときに、ウダヤナ大学の学長と副学長に偶然お会いした。搭乗までの間、懇談した。

ホテル到着時には24時を回っていた。予約したホテルの一室は、ダブルベッドとなっており、交渉の末、ツインルームに変更してもらった。

2月19日（水）

10:00 ウダヤナ大学にてウェルカムセレモニー

参加者：ウダヤナ大学：Prof. Mahendra, Dr. Nuarsa, Dr. Gede, Ni Putu Sri

Harta Mimba, PhD（Director of Center for international Program）、International Office から2名

千葉大学：学生6名、教員1名（大嶋）

〈内容〉ウェルカムセレモニー

- ・ 歓迎の言葉（Prof. Mahendra）
- ・ ウダヤナ大学紹介 VTR
- ・ 学生自己紹介
- ・ 記念品交換（千葉大学からは、学生からと大嶋からそれぞれお菓子のお土産）
- ・ 写真撮影

11:30 ウダヤナ大学にて授業検討

14:00 昼食（学食）

14:30 解散

参加者：千葉大学学生6名、教員1名（大嶋）

〈内容〉授業検討

〈コメント〉

International Officeの方がウェルカムセレモニーをオーガナイズしていただき、改まった形のセレモニーであったため、学生は少し緊張した面持ちであった。それでも、ウダヤナ大学の先生方、特にマヘンドラ先生は、フレンドリーに接していただき、良い雰囲気で行われた。ウダヤナ大学に、新しく International Program センター（センター長（Director）：Ni Putu Sri Harta mimba, Ph.D）が開設され、ツインクルプログラムも今後はこのセンターを介して実施されるとのことであった。

ウェルカムセレモニーの後、副学長と偶然再会した。MOA に関して、ウダヤナ大学側が印刷し、サインしたものを今回の滞在中に大島に渡していただくということをご提案いただいた。

今回は2ユニットの学生がウダヤナ大学を訪問しているが、お互いの授業内容があまり分からないということであったため、ウダヤナ大学の学食にて、授業案を発表し、授業案改善のためにコメントし合う機会を設けた。こちらは何も言わなかったが、英語で説明を始めるなど、英語で授業を行うということについて、良い意味での緊張感が感じられた。お互いに授業案を見合うことで、細かい修正点が明らかにされただけでは無く、自らの授業の良さを認識できたようで、それを基に再度授業を練り直すという前向きな姿勢を感じる事ができた。



ウダヤナ大学教員らによるウェルカムセレモニー



大学学食での英語での授業検討会

2月20日（木） SMA 2 Denpasar に挨拶，授業準備

10:00 SMA 2 Denpasar 集合

13:30 解散

〈内容〉

- ・ ウェルカムミーティング
- ・ 授業準備
- ・ 予備実験の実施

〈コメント〉

校長先生が不在ということで英語教師の Made Ssemadai yasa 先生に、主にご担当いただいた。この高校はITのモデル校に指定されているようで、工学的な内容の授業に特に興味を持っているようであり、ユニットBのホログラムの授業に対して非常に興味を示された。また、昨年、インドネシア全土におけるDNAに関する研究発表において、この高校は10位になったということで、プロテインやDNAを取り扱う授業についてのやりやすい環境が整っていると言えそうである。

学生から、授業に必要な器具や設備の確認、お願い等を高校側にさせていただいたが、学生は正確に伝えることに苦慮していたようであった。それでも、自ら実験器具やプロジェクター等を確認し、予備実験も行い、責任を持って行動していた。



高校での挨拶



授業準備

2月21日（金）

11:30 SMA 2 Denpasar 集合・授業準備

12:45 授業開始（90分間）

16:00 解散

〈内容〉

- ・ ユニットA 授業「Protein」
- ・ ユニットB 授業「Hologram」

〈コメント〉

学生は非常に緊張しているようであったが、ユニットメンバーと協力し合い、入念に準備をしていた。ユニット B の Hologram の授業は、カーテンを閉め切っていたため、教室の温度はかなり高かった。それでも生徒たちは、最後まで興味をもってホログラム作成に取り組んでおり、ホログラムに対する興味の高さが伺えた。ホログラムという言葉に馴染みが無いために、ホログラムについてどのように興味を持たせるのかについて改善する余地があるようであった。また、ホログラム作成の活動の手順が多段階であるため、クラス全体でワンステップごとに確認しながら行うはずが、グループごとに進んでしまい、学生はその対応に追われていた。

ユニット A は、伝えたいことが明確であり、また話し方もクリアであったため、生徒らは授業内容に、十分集中して取り組むことができているようであった。プロテインに関する実験活動ができない分、プロテインの合成や酵素の働きを生徒らに演じてもらうことで、彼らの体の中でどのようなことが起こっているのか、そしてそれがどのくらいすごいことであるのかを体験してもらうように計画したが、うまくいったように思える。

授業後、授業の良かった点と改善点を中心に2つのユニットで情報を共有し、来週の授業に生かすようにした。



ユニット A 授業「Protein」



酵素の働きを体験的に学ぶ



ユニット B 授業「Holography」



Hologram の紹介



Hologram の作成



授業後の反省会

2月24日（月）

11:30 SMA 2 Denpasar 集合・授業準備

12:45 授業開始（90分間）（ユニットAの日本文化授業は45分の想定であったが、90分かかった）

16:00 解散

〈内容〉

- ・ ユニットA 授業「Japanese Tea Ceremony」
- ・ ユニットB 授業「Immunity」

〈コメント〉

2回目の授業ということで、少し落ち着きながら準備が進められていたようである。自ら行動して準備を進める姿は頼もしかった。ユニットAの日本文化の授業では、茶道の作法について、丁寧にそして少し厳しく子どもたちに指導した。その厳しさが、生徒たちにも響いたようで、日本文化を肌で感じ取っていたようであった。ユニットBの理科授業では、自らのDNAを抽出し、可視化する実験を行った。生徒らはDNAについて十分勉強してきたようであるが、実際に自らのDNAを見る経験は初めてであったため、興味深そうに集中して実験活動に取り組んでいた。学生らは手分けをして生徒らの活動をサポートしており、最終的にすべての生徒のDNAを可視化することに成功した。授業後に、授業を振り返る時間を設け、次回までの改善点を確認した。



ユニット A の日本文化授業「Japanese Tea Ceremony」



ユニット B 授業「Immunity」説明と DNA の抽出実験

2月25日（火）

09:00 SMA2 Denpasar 集合・授業準備

10:00 授業開始（90分間）（ユニット A の日本文化授業は45分の想定であったが、90分かった）

13:00 解散

〈内容〉

- ・ ユニット A 授業「Protein」
- ・ ユニット B 授業「Hologram」

〈コメント〉

学校行事があるため授業開始時間を変更して実施した。両ユニット共に短い時間で前回の授業を改善しており、さらに良い授業となっていた。どちらも何が授業の中心であるのか十分認識していたから、より効果的な授業に改善できていたものと思われる。前期派遣の学生の授業を受けた生徒からは、今回の授業の方が前回よりも良いということで、学生の授業の質が向上していることが伺える。前期派遣よりも後期派遣の方が、授業作成においてより時間をとれたことが要因かもしれない。そして、その中で、学生は自らの教材の価値等について十分吟味できた成果だと思われる。



実験プロセスの説明方法を改善



酵素の働きの理論の説明方法を改善

2月26日（水）

11:30 SMA 2 Denpasar 集合・授業準備

12:45 授業開始（90分間）（ユニットAの日本文化授業は45分の想定であったが、90分かかった）

14:30 farewell ceremony

16:30 解散

〈内容〉

- ・ ユニットA 授業「Japanese Tea Ceremony」
- ・ ユニットB 授業「Immunity」

〈コメント〉

教育学部の藤田剛志先生が、学生活動の視察のために来てくださった。学生の授業は、想像以上に良いということで、学生らを褒めていただいた。学生の英語力も十分であるという指摘もいただいた。最後の授業も生徒らには好評であるように見えた。

授業後には、お弁当を用意してもらい、お別れの会を開いていただいた。学校長からは、千葉大学の学生との交流を生徒が楽しみにしていたことなどをお話しいただいた。学生からは、生徒が素晴らしいこと、そして貴重な経験をさせていただいたことに対する感謝が述べられた。



ユニットAの授業後



ユニットBの授業後



校長先生へ感謝状を渡す藤田先生



謝辞を述べる学生

2月27日（木）

2月28日（金）

学校での活動は無いため、宿舎棟でレポート作成及び日本でのファイナルプレゼンテーション用のポスター作成を行った。その他の時間はエクスカージョンの時間とした。

一名が木曜日に体調を崩し、金曜日に入院をした。同じグループの学生らが適切に対処し、入院した本人は翌日には無事に退院することができた。学生のチームワークの良さが随所に見られ、このようなところでも本プログラムの意義を感じる。

3月1日（土）

15:00 デンパサール空港到着

18:10 ジャカルタ空港へ出発

21:30 ジャカルタ空港を出発

06:30 日本到着（翌日）

ガルーダ航空のチケットには、通常空港税が含まれているが、国際線に乗り継ぐ国内便に限り、空港にて4万ルピアさらに支払うことが判明した（ジャカルタでも確認済み）。

日本からジャカルタ空港に到着した際には、担当教員の後ろを歩いて付いてきただけの学生らであったが、ジャカルタ空港では、学生自らがチェックインカウンターを探し、分からなければ係員に英語で聞くなど、自ら行動することが身についており、2週間でたくましくなったことを実感した。成田空港の検疫係で、学生が入院したことを説明したところ、問題なく通過することができた。病院の診断書は必ず発行してもらう必要がある。